ミキシング・コンソール
LX7 II
取扱説明書

Soundcraft

2005年3月版

ご使用の前に

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人々への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。また、お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告	この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

- 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。
- AC100V、50/60Hzの電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因になります。電源ケーブルが傷んだときは(断線・芯線の露出等)、販売店に交換をご依頼ください。
- 雷が鳴りだしたら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電の恐れがあります。
- 機器の上に水が入った容器や金属片などを置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると火災や感電の原因となります。
- 万一キャビネットを破損した場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- 分解や改造は行わないでください。お客さまが保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

- 不安定な場所に置かないでください。落下によるけがの原因になります。
- 以下のような場所には設置しないでください。
  直射日光の当たる場所 / 極度の低温または高温の場所
  湿気の多い場所 / ほこりの多い場所
  振動の多い場所 / 風通しの悪い場所
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続ケーブルを全て外して行ってください。
- 配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。
- 電源を入れる前や音声ケーブルの接続時には、各ボリュームを最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚傷害などの原因になることがあります。
- ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■使用上のご注意

- お手入れは、乾いた柔らかい布か、水または薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナー、ベンジン等の溶剤は、本体に印刷された文字を消してしまったりボディを変形させる恐れがあります。
- 殺虫剤や揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。プラスチックの中に含まれる可塑剤の作用により、変質したり塗料がはげるなどの原因となります。
- 持ち運ぶ際は衝撃を与えないように十分注意してください。フェーダやつまみには特に注意してください。
- 携帯電話等の外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えノイズの原因となります。そのようなときは本機から少し離してご使用ください。

はじめに・目次

■はじめに

この度は Soundcraft LX7 Ⅱをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。ご使用いただく前に必ず本書をお読みいただき、内容をよくご理解された上で正しくお使いください。

保証書について

・保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より 1 年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
・お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」が正しく記入されていない場合は保証書が無効になり、無償修理が受けられないことがあります。記載内容が不充分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
・改造など通常の使用範囲を超えた取り扱いによる、設計･製造以外の要因で起きた故障や不具合は、期間内であっても保証の対象外となります。

故障かな?と思われる症状が出たときには

この取扱説明書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

■目次

●ご使用の前に
安全上のご注意 2
使用上のご注意 2
●はじめに 3
●目次 3
●特徴 4
●電源の入れ方 4
●全体図 5
●各部の名称と機能
モノラル入力セクション 6
モノラル入力セクションの入出力端子 8
ステレオ入力セクション 9
ステレオ入力セクションの入力端子 9
マスタ・セクション 10
マスタ・セクションの入出力端子 12
●セットアップの方法 13
●ブロック・ダイアグラム 14
●仕様 15
●寸法図 15

特徴・電源の入れ方

■特徴

LX7 II は中小規模のライブ・パフォーマンスに最適な SR 用ミキシング・コンソールです。音質に関わる回路やパーツを磨き上げ、妥協のない優れた音響性能を獲得。ライブ・サウンドのクオリティを飛躍的に高めます。

●新たに開発されたヘッドアンプは、高入力インピーダンスと低雑音を達成し原音を極めて忠実に再現。各入力チャンネルに搭載されたパラメトリック・イコライザはブレのない極めて正確なコントロールを実現し、微細な音質調整から大胆なサウンドメイクまで多彩な音作りが可能です。また、イコライザにはイコライジング前後の音質を簡単に比較できる ON/OFF スイッチも装備しています。

●モノラル入力、グループ出力、MIX L/R 出力にインサート端子を装備。それぞれ個別に外部エフェクタを接続して、音質を調整できます。

●中規模の会場にも十分対応する、MIX L/R、C(MONO)、4 グループ、6AUX の豊富な出力系統を装備。1 ～ 4AUX は 2 系統ごとにプリ / ポストフェーダに切り替えられ、エフェクタの接続やモニタへの出力など、状況に応じた設定が行えます。さらに、モノラル入力チャンネルに備えられたダイレクトアウト(16ch モデルの 1 ～ 8ch、24ch モデルの 1 ～ 16ch に搭載)も用途に合わせてプリ / ポストフェーダの切り替えが可能です。

●ほとんどの入出力信号はスイッチ 1 つで個別に検聴可能。視認性の高い 5 系統、12 セグメントの LED メータも備えています。また、全てのフェーダは 100mm のロングストロークでミックスバランスや出力レベルの微細な調整が可能です。さらに、トークバックマイク入力を装備しており、ステージとのやりとりがスムーズに行えます。

●フレームサイズは 16/24ch モデルから選択でき、2 系統のステレオ入力と 2 系統のステレオリターンを装備しています。フレームには過酷な使用状況にも十分耐える鋼鉄製のシャーシを採用。常に安定した電力を供給する電源ユニットを本体に内蔵しています。

■電源の入れ方

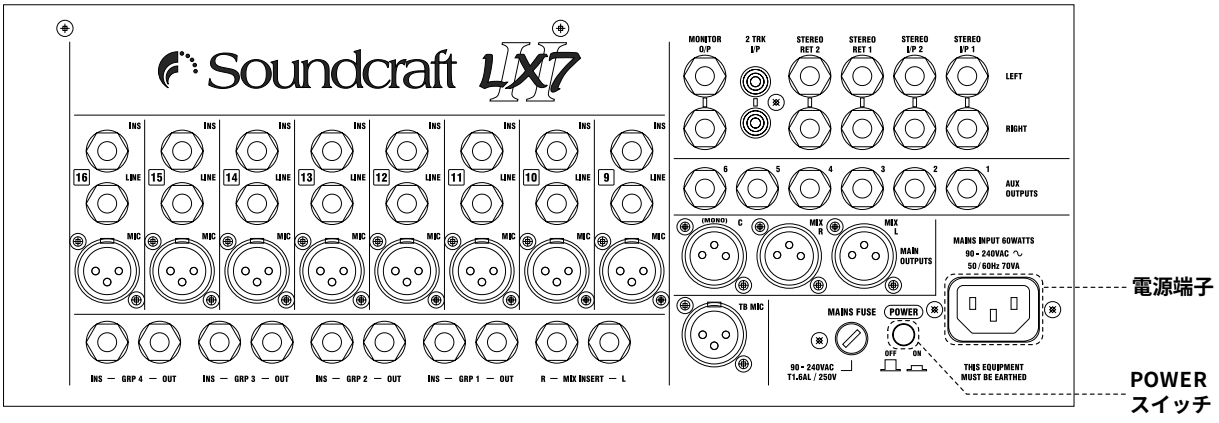
本体背面にある電源端子とコンセントを付属の電源ケーブルで接続し、電源端子の左隣にある POWER スイッチを押すと、LX7 II の電源が入ります。ご使用になる時は以下の手順に従い、電源を入れてください。

①電源プラグを外した状態で、全てのスイッチを OFF にして、フェーダやつまみを最小にします。

②マイクロホンやキーボード、パワーアンプなどを各入出力端子に接続します。

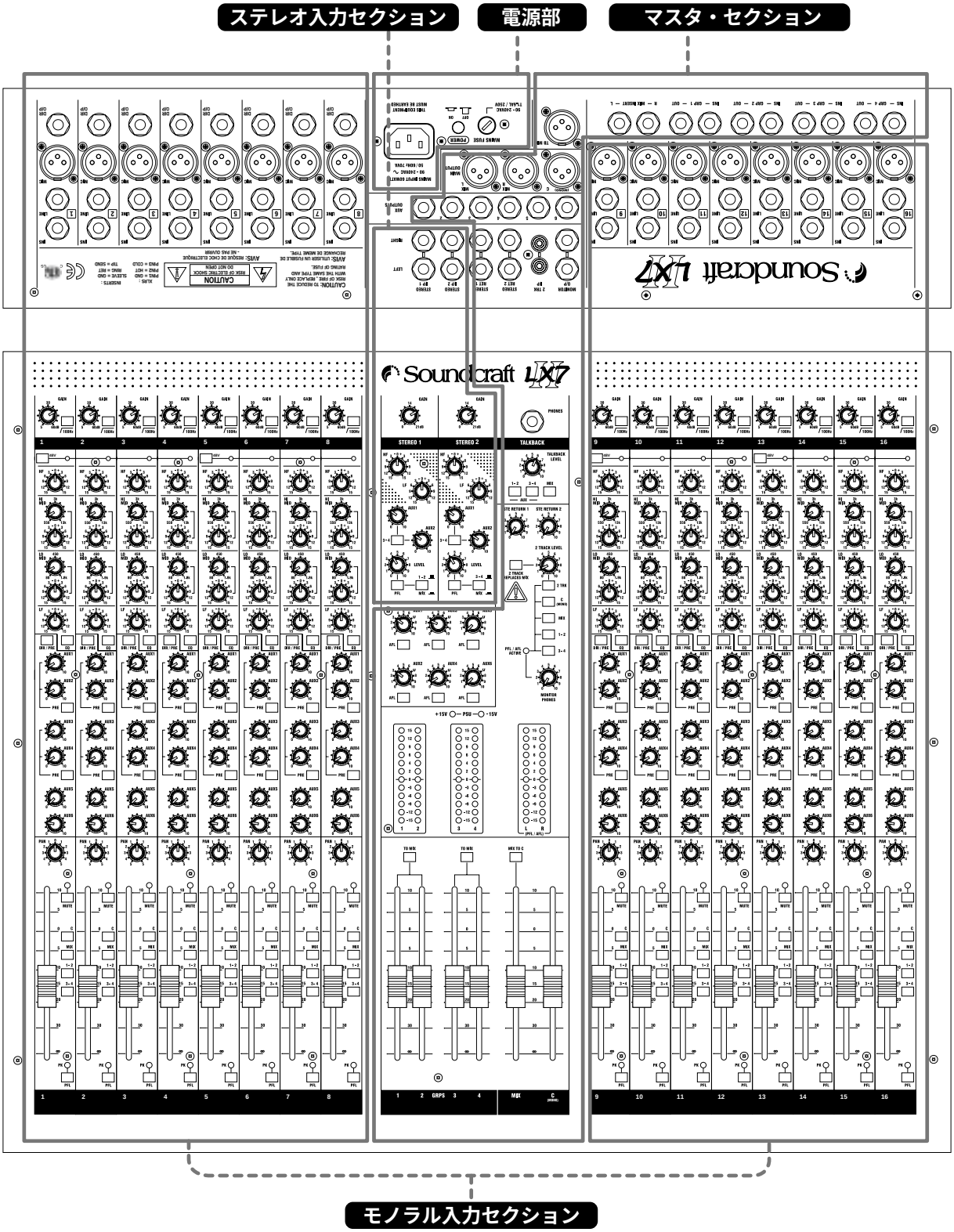
③スピーカを保護するため、「周辺機器」→「本機」→「パワーアンプ(パワードスピーカ)」の順番で電源を ON にします。OFF にする時は、その逆の手順を行ってください。

※スピーカから音の出る状態でミキサーの電源を ON/OFF すると、「バチッ」というノイズが出力されスピーカなどの接続された機器を破損する恐れがあります。



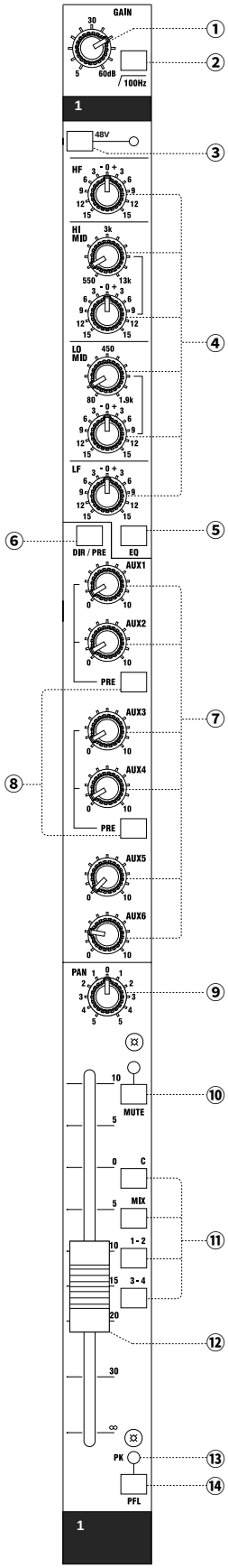
全体図

■全体図(16ch モデル)



各部の名称と機能

■モノラル入力セクション



① GAIN : ゲイン調整つまみ

入力信号のレベルに合わせてヘッドアンプのゲイン(入力感度)を設定します。レベルが高すぎると、過負荷状態になって信号が歪むことがあります。レベルが低すぎると、ヒス・ノイズが目立つようになると同時に、ミキサの出力から十分な信号レベルが得られないことがあります。

ゲインの正しい設定方法については、13ページの「セットアップの方法」をご覧ください。

② 100Hz : ハイパス・フィルタON/OFFスイッチ

このスイッチをONにすると、100Hz以下の信号成分が18dB/octのカーブで減衰します。低域の不要なノイズを抑えてミックスの明瞭度を高める場合に使用してください。

③ 48V : ファンタム電源ON/OFFスイッチ

このスイッチをONにすると、チャンネル1から4チャンネル単位でマイク入力端子に48Vのファンタム電源が供給されます。ファンタム電源がONの時は、右側のLEDが点灯します。

注 : アンバランス仕様のマイクロホンや、トランスのセンターがアースされていない機器を接続する際は、スイッチをOFFにしてください。バランス仕様のダイナミック・マイクロホンは、ONの状態で接続しても問題ありません。

注 : 外部機器の損傷を防止するため、スイッチはコンデンサ・マイクロホンを差し込んでからONにし、ON/OFFの切替はフェーダやつまみを最小にしてから行ってください。

④ イコライザ

周波数特性を変化させて入力信号の音質を補正します。ライブPAでは原音が理想的な状態でないことが多く、イコライザを使うことで明瞭度を高めることができます。モノラル入力セクションには4バンドのパラメトリック・イコライザが搭載されています。

バンド	中心周波数	ゲイン	カーブ
HF	13kHz	±15dB	シェルビング
HI-MID	550Hz〜13kHz	±15dB	ピーキング (Q=1)
LO-MID	80Hz〜1.9kHz	±15dB	ピーキング (Q=1)
LF	80Hz	±15dB	シェルビング

HF(高域用イコライザ)

右に回すと13kHzを中心とした高域成分が最大15dBブーストされ、シンバル、ボーカル、電子楽器などの粒立ちをよくすることができます。左に回すと最大15dBカットされ、特定のマイクロホンで発生することのあるヒス・ノイズや余分な歯擦音が抑えられます。不要な時は、0の位置に合わせてください。

HI MID/LO MID(中域用イコライザ)
HI MID(中高域用)およびLO MID(中低域用)のイコライザは、それぞれ2組のつまみで構成されています。上側のつまみで中心周波数を550Hz～13kHz(HI MID)、80Hz～1.9kHz(LO MID)の範囲で設定し、下側のつまみでゲインを±15dBの範囲で調整します。ほとんどのボーカル帯域は中域に集中しているため、これらのつまみを適切に調整すればライブPAの音質をかなり向上させることができます。出力音を注意深く聴きながら目的の効果が得られるポイントを探してください。不要な時は、ゲイン(下側)のつまみを0の位置に合わせてください。

LF(低域用イコライザ)
右に回すと80Hzを中心とした低域成分が最大15dBブーストされ、ボーカルに温かみを加えたり、シンセ、ギター、ドラムなどにパンチを加えることができます。左に回すと最大15dBカットされ、低域の不要なノイズが抑えられます。不要な時は、0の位置に合わせてください。

⑤ EQ：イコライザON/OFFスイッチ
このスイッチをOFFにすると、イコライザがバイパスされます。交互にON/OFFすることで、イコライジング前とイコライジング後の信号を簡単に比較できます。

⑥ DIR/PRE：ダイレクトアウト出力信号選択スイッチ
ダイレクトアウト端子への出力信号を選択します。OFFの時はポストフェーダの信号が、ONの時はプリフェーダの信号が出力されます。

⑦ AUX1-6：AUX出力レベル調整つまみ
AUXバスに送る信号の出力レベルを調整します。モニタへの出力など、メイン・ミックスとは別のミックスを作る際に便利です。

⑧ PRE：AUX出力信号選択スイッチ
AUX1-2、およびAUX3-4バスへの出力信号を選択します。OFFの時はポストフェーダの信号が、ONの時はプリフェーダの信号が出力されます。AUX 5/6はポストフェーダで固定です。外部エフェクタを接続する場合、出力レベルをフェーダで調整するためにポストフェーダに設定します。モニタへの出力として使用する時は出力レベルがフェーダの設定によって変化しないようにプリフェーダに設定してください。

⑨ PAN：パン調整つまみ
各バスに送る信号の量を調整して信号を右スピーカから左スピーカのどの位置に定位させるかを決めます。0の位置にすると右スピーカと左スピーカの両方に同一レベルで出力されます。つまみを右に回しきると右スピーカのみに出力され、左方向に回していくことで音像は左に移動していきます。

⑩ MUTE：ミュートON/OFFスイッチ
このスイッチをONにすると、インサート端子とダイレクトアウト端子(プリフェーダ設定時)を除く、チャンネルからの出力が全てミュートされます。

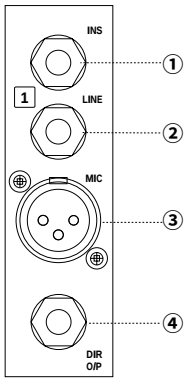
⑪ 出力バス選択スイッチ
ポストフェーダの信号をどのバスに出力するか選択します。Cスイッチは C(MONO)バスに、MIXスイッチはMIX L/Rバスに、1-2、3-4スイッチはグループ1-2バス、グループ3-4バスに対応しています。

⑫ チャンネル・フェーダ
信号のミックス・バランスを調整します。0の位置で定格ゲイン、突き上げで10dBuのゲインを持たせることができます。

⑬ PK：ピークLED
信号のピークレベルを高域用イコライザの直後と低域用イコライザの直後の2点で監視し、クリップする約4dB前に点灯します。プリフェーダ検聴スイッチ⑭がONの時は常に点灯し、ピークLEDの働きはしません。

⑭ PFL：プリフェーダ検聴スイッチ
このスイッチをONにすると、マスタ・セクションのモニタ出力信号選択スイッチで選択された信号が切断され、このチャンネルのプリフェーダ信号がマスタ・セクションのヘッドホン出力、モニタ出力、およびモニタ出力レベルメータに送られます。スイッチがONの時は、ピークLED⑬およびマスタ・セクションのPFL/AFL ACTIVE LEDが点灯します。

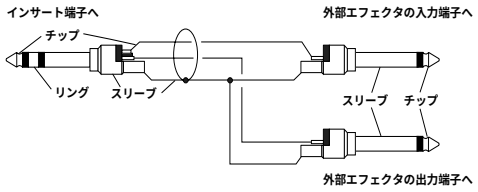
■モノラル入力セクションの入出力端子



① INS：インサート端子
標準フォーンジャック(3P)のインサート端子です。リミッタ、コンプレッサ、イコライザなどの外部エフェクタをそのチャンネルの信号経路だけに挿入できます。インサートポイントはイコライザの直前です。

注：インサート端子はTRS(チップ、リング、スリーブ)型のフォーンジャックを利用した双方向の接続となっております。接続には下の図のような特殊なインサートケーブルが必要です。

インサートケーブル

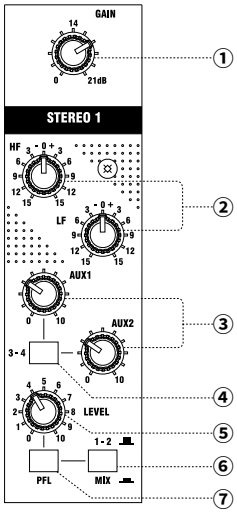


② LINE：ライン入力端子
バランス仕様、標準フォーンジャック(3P)のライン入力端子です。バランスまたはアンバランスのラインレベルの信号を接続します。ライン入力端子を使用する場合、マイク入力端子③には何も接続しないでください。

③ MIC：マイク入力端子
バランス仕様、XLRコネクタのマイク入力端子です。バランスまたはアンバランスのマイクレベルの信号を接続します。コンデンサ・マイクロホンを使用する時は、前面のファンタム電源ON/OFFスイッチをONにしてください。マイク入力端子を使用する場合、ライン入力端子②には何も接続しないでください。

④ DIR O/P：ダイレクトアウト端子
疑似バランス仕様、標準フォーンジャックのダイレクトアウト端子です。16chモデルの1～8ch、24chモデルの1～16chに装備されており、録音機器や外部エフェクタを直接接続できます。

■ステレオ入力セクション



① GAIN：ゲイン調整つまみ
入力信号のレベルに合わせてヘッドアンプのゲイン(入力感度)を設定します。レベルが高すぎると、過負荷状態になって信号が歪むことがあります。レベルが低すぎると、ヒス・ノイズが目立つようになると同時に、ミキサの出力から十分な信号レベルが得られないことがあります。

ゲインの正しい設定方法については、13ページの「セットアップの方法」をご覧ください。

② イコライザ
周波数特性を変化させて入力信号の音質を補正します。ライブPAでは原音が理想的な状態でないことが多く、イコライザを使うことで明瞭度を高めることができます。ステレオ入力セクションには2バンドのパラメトリック・イコライザが搭載されています。

バンド	中心周波数	ゲイン	カーブ
HF	12kHz	±15dB	シェルビング
LF	60Hz	±15dB	シェルビング

HF(高域用イコライザ)
右に回すと12kHzを中心とした高域成分が最大15dBブーストされ、ドラム・マシン、シンセ、電子楽器などの粒立ちをよくすることができます。左に回すと最大15dBカットされ、ヒス・ノイズや余分な高域成分が抑えられます。不要な時は、0の位置に合わせてください。

LF(低域用イコライザ)
右に回すと 60Hz を中心とした低域成分が最大 15dB ブーストされ、シンセ、ギター、ドラムなどにパンチを加えることができます。左に回すと最大 15dB カットされ、ハム・ノイズや低域の余分な響きが抑えられ、明瞭度が向上します。不要な時は、0 の位置に合わせてください。

③ AUX1-2：AUX出力レベル調整つまみ
AUXバスに送る信号の出力レベルを調整します。モニタへの出力など、メイン・ミックスとは別のミックスを作る際に便利です。ステレオ入力セクションからAUXバスに送られる信号はプリフェーダのみです。外部エフェクタ用にポストフェーダの出力が必要な場合は、ステレオ入力の代わりにモノラル入力チャンネルのライン入力をペアで使用してください。

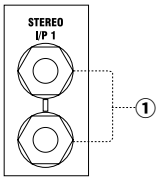
④ 3-4：AUX出力切替スイッチ
このスイッチを ON にすると AUX1-2 バスへの出力を AUX3-4 バスへの出力に切り替えることができます。

⑤ LEVEL：出力レベル調整つまみ
信号のミックスバランスを調整します。

⑥ 1-2/MIX：出力バス選択スイッチ
ポストフェーダの信号をどのバスに出力するか選択します。スイッチを ON にすると MIX L/R バスへ、OFF にするとグループ1-2バス(ステレオ2はグループ3-4バス)へ信号が出力されます。

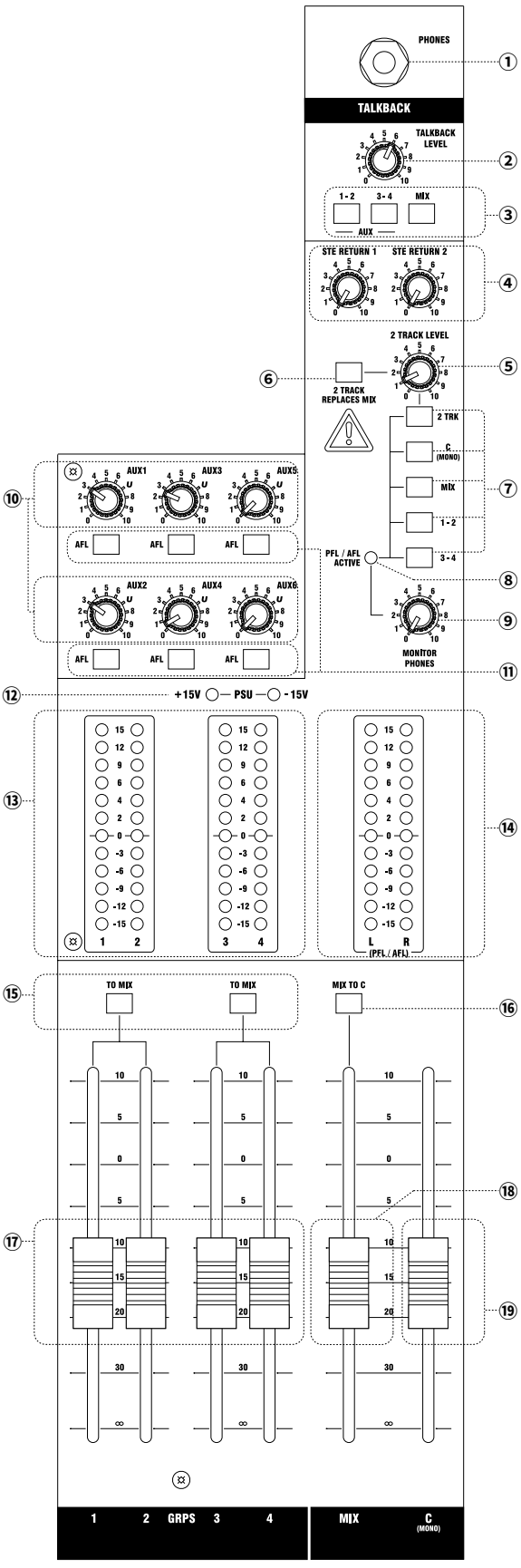
⑦ PFL：プリフェーダ検聴スイッチ
このスイッチをONにすると、マスタ・セクションのモニタ出力信号選択スイッチで選択された信号が切断され、チャンネルのプリフェーダ信号がマスタ・セクションのヘッドホン出力、モニタ出力、およびモニタ出力レベルメータに送られます。スイッチがONの時はマスタ・セクションの PFL/AFL ACTIVE LED が点灯します。

■ステレオ入力セクションの入力端子



① STEREO I/P：ステレオ入力端子
バランス仕様、標準フォーンジャック(3P)のステレオ入力端子です。バランスまたはアンバランスのラインレベルの信号を接続します。モノラル音源を入力する場合、LEFT(上)側の端子に接続すればLとRの両方に同じ信号が送られます。

■マスタ・セクション



① PHONES : ヘッドホン出力端子
標準フォーンジャック(3P)のヘッドホン出力端子です。負荷インピーダンスが200Ω以上のヘッドホンに適合しています。

② TALKBACK LEVEL : トークバック出力レベル調整つまみ
トークバック・マイク入力端子から各バスへ送られる信号のレベルを調整します。

③ トークバック出力先選択スイッチ
トークバック出力レベル調整つまみ②通過後の信号の出力先を選択します。スイッチを押している間のみ信号が選択されたバスに出力されます。MIXスイッチはMIX L/Rバスに、1-2、3-4スイッチはAUX1-2、AUX3-4バスに対応しています。

④ STE RETURN 1、2 : ステレオリターン出力レベル調整つまみ
ステレオリターン入力端子からMIX L/Rバスに送られる信号のレベルを調整します。調整後の信号はMIX L/Rバスに直接ミックスされます。

⑤ 2 TRACK LEVEL : 2トラック出力レベル調整つまみ
2トラック入力端子からMIX L/Rバスやヘッドホン出力、モニタ出力、モニタ出力レベルメータに送られる信号のレベルを調整します。

⑥ 2 TRACK REPLACES MIX : MIX/ 2トラック切替スイッチ
このスイッチをONにするとMIX L/R端子からの出力がMIX L/Rバスの信号から2トラック入力端子に入力されている信号に切り替わります。

注 : このスイッチをONにすると、MIX L/Rバスからの信号がカットされます。実際のライブ中またはレコーディング中には使用しないでください。

⑦ モニタ出力信号選択スイッチ
ヘッドホン出力、モニタ出力、およびモニタ出力レベルメータ⑭の音源を個別に、または組み合わせて選択します。2TRKスイッチは2トラック入力信号に、C(MONO)スイッチはC(MONO)バスに、MIXスイッチはMIX L/Rバスに、1-2、3-4スイッチは、グループ1-2バス、グループ3-4バスに対応しています。

⑧ PFL/AFL ACTIVE LED
各チャンネルのプリフェーダ検聴スイッチまたはAUXポストフェーダ検聴スイッチ⑪がONの時に点灯し、PFL/AFL信号がヘッドホン出力、モニタ出力、モニタ出力レベルメータ⑭へ出力されていることを示します。

⑨ MONITOR + PHONES :
モニタ/ヘッドホン出力レベル調整つまみ
モニタ出力もしくはヘッドホン出力の最終的な出力レベルを設定します。通常はモニタ出力端子から出力される信号のレベルを調整するつまみですが、ヘッドホン出力端子①にヘッドホンを接続すると、モニタへの出力がカットされ、ヘッドホンのレベル調整用のつまみとして働きます。

⑩ AUX1-6 : AUX出力レベル調整つまみ
AUX 出力の最終的な出力レベルを調整します。

⑪ AFL : AUXポストフェーダ検聴スイッチ
このスイッチを ON にすると、モニタ出力信号選択スイッチ⑦で選択された信号が切断され、AUX出力レベル調整つまみ⑩通過後の信号がモニタやヘッドホン出力、モニタ出力レベルメータ⑭へ出力されます。スイッチが ON の時は、PFL/AFL ACTIVE LED ⑧が点灯します。

⑫ PSU +15V/-15V : 電源LED
電源スイッチが ON になっていて、内蔵電源が正常に動作している時、これらの LED が点灯します。

⑬ 1、2、3、4 : グループ出力レベルメータ
グループフェーダ⑰通過後の信号のレベルを表示する12セグメントのLEDメータです。過負荷の原因となる過大なピーク信号を絶えず監視します。ピーク時に黄色の LED が点灯する程度に信号レベルを維持すると、最高の性能が得られます。また、出力レベルが低すぎてメータにほとんど表示されないような場合、バックグラウンド・ノイズが目立つことがあります。本機の性能を最大限に発揮させるために、入力レベルは適切に設定してください。

⑭ L、R(PFL/AFL) : モニタ出力レベルメータ
モニタ出力信号選択スイッチ⑦で選択された信号のレベルを表示する 12 セグメントの LED メータです。過負荷の原因となる過大なピーク信号を絶えず監視します。また、各チャンネルのプリフェーダ検聴スイッチまたはAUXポストフェーダ検聴スイッチ⑪がONの時は、モニタ出力信号選択スイッチからの信号が切断され、PFL/AFL 信号のレベルが表示されます。

⑮ TO MIX : グループ/MIX出力スイッチ
このスイッチを ON にすると、グループ・フェーダ⑰通過後の信号が MIX L/R バスに出力されます。グループ 1、3 は MIX L バス、グループ 2、4 は MIX R バスに出力されます。

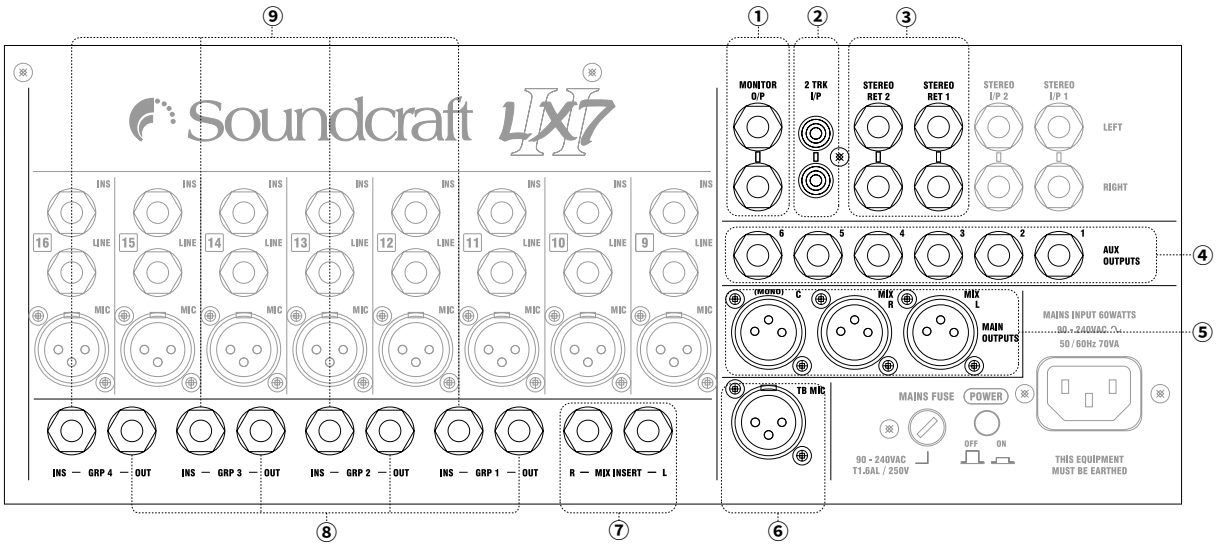
⑯ MIX TO C : MIX/C(MONO)出力スイッチ
このスイッチをONにすると、MIX L/Rマスタ・フェーダ⑱通過後の信号がモノサミングされ、C(MONO)マスタ・フェーダ⑲の直前に出力されます。この機能を使えば、センター・スピーカなどに送るためのモノラル・ミックスを作ることができます。

⑰ グループ・フェーダ
グループ出力の最終的な出力レベルを調整します。0 の位置で定格ゲイン、突き上げで 10dBu のゲインを持たせることができます。入力ゲインが正しく設定されていれば、通常は「0」に近い位置に設定でき、フェーダのストロークを最大限に活かしたスムーズな調整を行うことができます。

⑱ MIX L/Rマスタ・フェーダ
MIX L/R 出力の最終的な出力レベルを調整します。0 の位置で定格ゲイン、突き上げで 10dBu のゲインを持たせることができます。入力ゲインが正しく設定されていれば、通常は「0」に近い位置に設定でき、フェーダのストロークを最大限に活かしたスムーズな調整を行うことができます。

⑲ C(MONO)マスタ・フェーダ
C(MONO)出力の最終的な出力レベルを調整します。0の位置で定格ゲイン、突き上げで 10dBu のゲインを持たせることができます。入力ゲインが正しく設定されていれば、通常は「0」に近い位置に設定でき、フェーダのストロークを最大限に活かしたスムーズな調整を行うことができます。

■マスタ・セクションの入出力端子



① MONITOR O/P : モニタ出力端子
バランス仕様、標準フォーンジャック(3P)のモニタ出力端子です。

② 2 TRK I/P : 2トラック入力端子
アンバランス仕様、RCA端子の2トラック入力端子です。BGM 等の音源を接続します。

③ STEREO RET 1、2 : ステレオリターン入力端子
バランス仕様、標準フォーンジャック(3P)のステレオ・リターン入力端子です。モノラル音源を入力する場合、LEFT(上)側の端子に接続すればLとRの両方に同じ信号が送られます。

④ AUX OUTPUTS 1〜6 : AUX出力端子
バランス仕様、標準フォーンジャック(3P)の AUX 出力端子です。

⑤ MAIN OUTPUTS(MIX L/MIX R/ C(MONO)) : MIX L/R、C(MONO)出力端子
バランス仕様、XLR コネクタの MIX L/R、C(MONO)出力端子です。

⑥ TB MIC : トークバック・マイク入力端子
バランス仕様、XLR コネクタのトークバック・マイク入力端子です。バランスまたはアンバランスのマイクレベルの信号を接続します。

⑦ MIX INSERT L/R : MIX L/Rインサート端子
標準フォーンジャック(3P)のインサート端子です。リミッタ、コンプレッサ、イコライザなどの外部エフェクタを MIX L/R 出力の信号経路だけに挿入できます。インサートポイントは MIX L/R マスタ・フェーダの直前です。

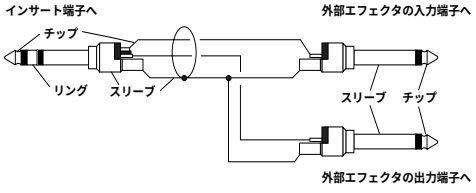
注 : インサート端子はTRS(チップ、リング、スリーブ)型のフォーンジャックを利用した双方向の接続となっております。接続には下の図のような特殊なインサートケーブルが必要です。

⑧ GRP OUT 1〜4 : グループ出力端子
バランス仕様、標準フォーンジャック(3P)のグループ出力端子です。

⑨ GRP INS 1〜4 : グループ・インサート端子
標準フォーンジャック(3P)のインサート端子です。リミッタ、コンプレッサ、イコライザなどの外部エフェクタをそのグループ出力の信号経路だけに挿入できます。インサートポイントはグループ・フェーダの直前です。

注 : インサート端子はTRS(チップ、リング、スリーブ)型のフォーンジャックを利用した双方向の接続となっております。接続には下の図のような特殊なインサートケーブルが必要です。

インサートケーブル



セットアップの方法

■セットアップの方法

ここでは、LX7 IIを使ってクリアなミックスを実現するための、接続や調整の手順を紹介します。ただし、接続する機器や用途によって手順は異なりますのでご注意ください。

①電源プラグを外した状態で全てのスイッチを OFF にして、フェーダやつまみを最小にします。イコライザやパンのつまみはセンター(0)の位置に合わせてください。

②マイクロホンやキーボード、パワーアンプなどを各入出力端子に接続します。
※外部機器の電源は全て OFF にしてから接続してください。
※ギターやベースなどの楽器を入力する際は、DI(ダイレクトボックス)やプリアンプなどを、本機とそれらの楽器の間に接続してください。直接接続すると音やせやノイズの原因となります。

③スピーカを保護するため、「周辺機器」→「本機」→「パワーアンプ(パワードスピーカ)」の順番で電源を ON にします。
※スピーカから音が出る状態で、ミキサーの電源を ON/OFF すると「バチッ」というノイズが出力され、スピーカなどの接続された機器を破損する恐れがあります。

④ミックスのメインとなる信号が入力されているチャンネルのフェーダを 0 に設定します。
※「バラード調の曲だったらボーカル」というように、メインとなる信号のレベルを最初に決めて、それを基準にして他の信号レベルを調整します。こうすることでメリハリのあるミックスが可能です。

⑤、④のチャンネルに入力された信号のゲインを調整します。ヘッドホンで音を聞きながら、マスタ・セクションのモニタ出力レベルメータで最大ピーク時に赤色の LED が一瞬だけ点灯する程度に入力ゲインを調整してください。

⑥、④⑤の手順を、他の入力チャンネルに関しても必要なだけ繰り返します。プリフェーダ検聴スイッチやミュート ON/OFF スイッチを使って、他の信号とのバランスを考え、レベルを調整してください。
※重要と思われるパートから全体のバランスを考えてミックスしていきます。
※ノイズを軽減するため、使用しないチャンネルのフェーダは下げてください。

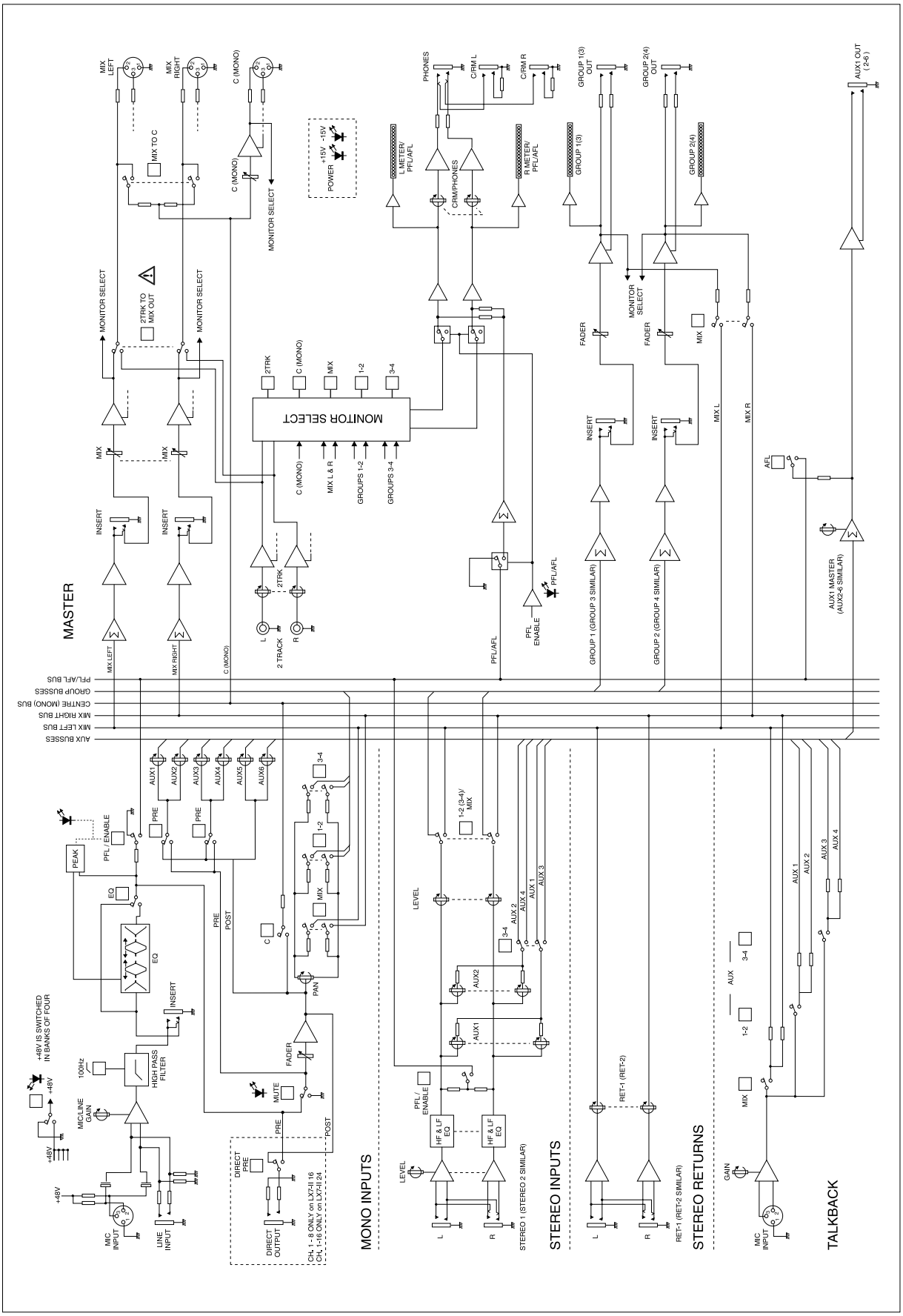
⑦必要に応じてイコライザを調整します。
※イコライザを調整すると信号レベルが増減します。イコライザの調整後、赤色の LED が頻繁に点灯してしまう場合は、最大ピーク時に一瞬だけ点灯するようにレベルを調整してください。

⑧マスタ・フェーダでミックス全体のレベルを調整します。

⑨ハウリングを起こしていないかチェックします。もしハウリング無しに満足な信号レベルが得られない場合は、ハウリングを起こさないようにマイクロホンのセッティングやスピーカの位置をチェックして、これまでの手順を繰り返します。

ブロック・ダイアグラム

■ブロック・ダイアグラム

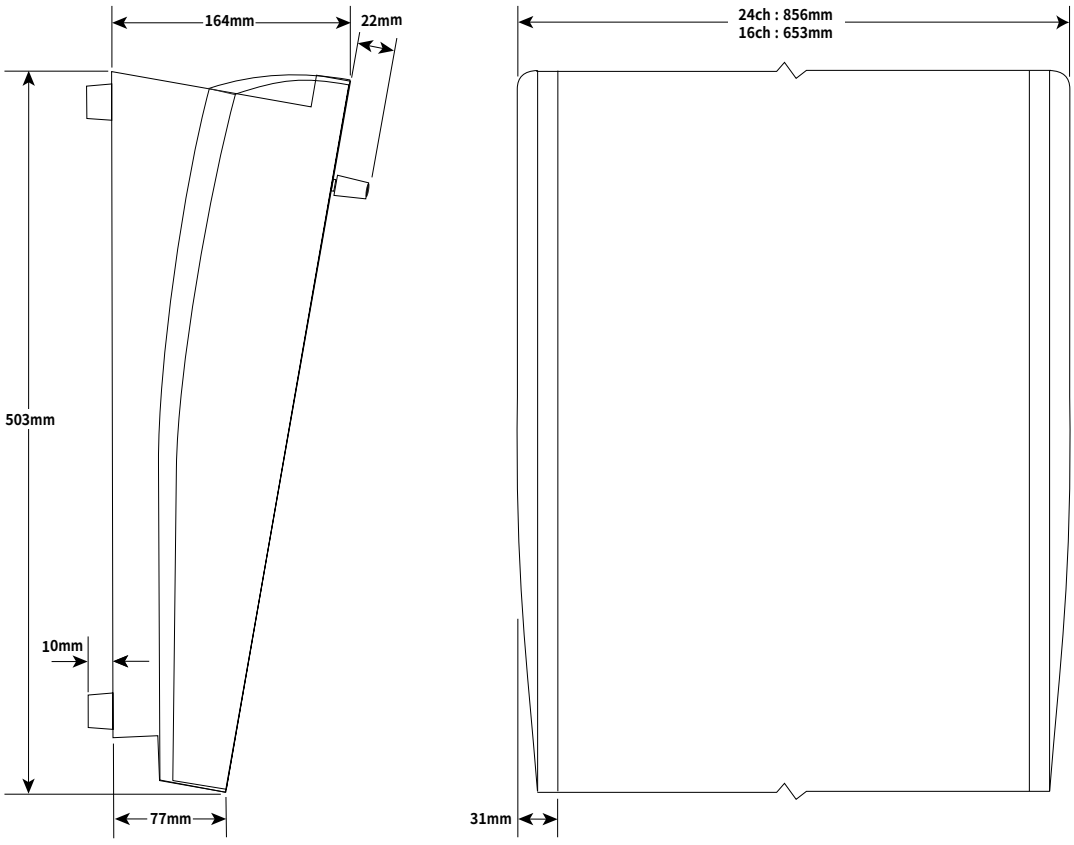


仕様・寸法図

■仕様

周波数特性 ..... 20Hz ～ 20kHz、+0/-1dB
マイク等価入力ノイズ ..... -128dBu 以下(22Hz ～ 22kHz、150 Ω ソース)
THD+N ..... 0.008% 以下(+10dBu、1kHz)
最大信号レベル
　マイク入力 ..... +15dBu
　ライン入力 ..... +30dBu
　ステレオ入力 ..... +20dBu
インピーダンス
　マイク入力 2kΩ
　ライン入力 10kΩ以上
イコライザ(モノラル入力)
　HF ..... 13kHz、± 15dB、シェルビング
　HI-MID ..... 550Hz ～ 13kHz、± 15dB、ピーキング (Q=1)
　LO-MID ..... 80Hz ～ 1.9kHz、± 15dB、ピーキング (Q=1)
　LF ..... 80Hz、± 15dB、シェルビング
ハイパスフィルタ ..... 100Hz、18dB/oct
電源 ..... AC100V、50/60Hz
寸法、重量
　16ch モデル ..... 653(W)× 174(H:つまみ、フェーダ除く)× 503(D)mm、18.2kg
　24ch モデル ..... 856(W)× 174(H:つまみ、フェーダ除く)× 503(D)mm、21.8kg

■寸法図



Soundcraft

HIBINO

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

http://www.hibino.co.jp/
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110　FAX: 03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890　FAX: 06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊1-5-24
TEL: 092-475-2555　FAX: 092-482-4535

北海道オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770　FAX: 011-640-6776